

序言

東洋文庫中国古代地域史研究グループ

本研究グループでは、これまでに『水経注疏』渭水篇（卷一七・一八・一九）と洛水・伊水篇（卷一五）の訳注を刊行してきた。それに引き続き卷一六所収の諸水の講読を進めていたが、このたびその上梓の運びに至った。本巻は洛陽盆地を流れる穀水・甘水のほかに、関中の漆水・滻水・沮水を含むが、穀水篇に深く関わる諸水である故に、これら三水をも併せて訳出することとした。

隔週で行われてきた研究会のメンバーは、年度および時期によりかなり変動してきたが、本書に関わったのは左記の一七名である。

池田雄一・窪添慶文・塩沢裕仁・多田狷介・藤田忠（以上は東洋文庫研究員）、石黒ひさ子・板橋暁子・宇都宮美生・大知聖子・角山典幸・柏倉優一・兼平充明・田熊敬之・長谷川順二・堀井裕之・宮内勇弥・山元貴尚（以上は研究協力者）

このほか旧メンバーの市来弘志・村松弘一両氏および東京大学の佐川英治氏は、事情の許す限り加わってくださったし、東洋文庫に外国人研究者として在籍された復旦大学の徐冲氏および西南大学の張新超氏、また日本に來られていた清華大学の侯旭東氏および江蘇省社会科学学院の姚棨氏、さらに留学生の黄楨氏および呉天宇氏・孫梓辛氏が半年または一年間にわたり研究会においでくださり、貴重な意見を頂戴できた。まことにありがたい次第であった。東北学院大學に來られていた復旦大學の李曉傑氏がわざわざおいでになり、研究会の場で『水経注』について講演してくださったこともある。学術交流という点ではこれまで以上に成果の多かつたことを喜ばしく思う。

研究会はこれまでと同じように、研究協力者による、『水経注疏』の各本による異同を含めた丁寧な報告と、参加者全員によるその検討を中心に進められたが、同時に、楊守敬『水経注疏』は当然と

して、各種の地図のほか、衛星写真をも参照しつつ進められた。ただ、現地調査は平成二八年一二月の一度にとどまった。もっとも、平成二五年の洛水・伊水流域調査の成果が今回の穀水篇にも活かされて、付記しなければならないだろう。

講読の担当者が改めて作成した訳注原稿に対しては、その修正・補充、表記・表現の統一など、全体のまとめを窪添が担当し、他の研究員がそれを補佐した。

また本訳注の理解に役立つことを願って、塩沢と窪添による解説文を掲載した。さらに、テキスト校勘に対する理解の一助にもなるように、東洋文庫所蔵『水経注』数種の書影と簡単な解説を別冊付録として掲載した。

本書刊行にあたっては、東洋文庫研究部の会谷佳光・中村威也ほかの各氏による多方面にわたるご援助・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表したい。

平成三十一年三月

(窪添慶文記)